

国政も市政も過渡期 皆さんの声を第一にがんばります

ふるさととは命 ふるさととは母

私のホームページ「小さな町の幸せ通信」のトップをかざる写真、今年はこの位置からのものを世界に発信します。

雪の降る中で2010年を迎えました。暖冬という予想でしたので、先月中旬に降ったとか雪には驚かされました。山間部では一晩に70センチも積ったところがあつたそうです。大雪にはしたくないですね。

さて昨年は、戦後政治の大きな転換点となった年となりました。これまでの大企業中心、アメリカいなり悪政の矛盾が一举に噴き出し、長年続いてきた自民党政治に終止符が打たれ、民主党を中心とした政権が誕生しました。

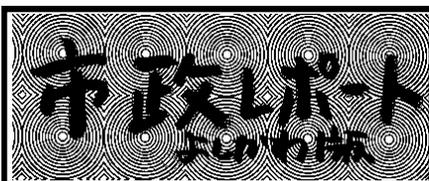
しかし、平和と国民の暮らしを守る政治を願うものとしては、後期高齢者医療制度廃止の先送りや沖縄・普天間基地の問題に見られるように、安心して任せられる状態ではありません。国民の切実な願い実現のために頑張るとともに、暮らしの苦難、平和の危機をもたらした政治の根源にある、「異常な対米従属」、「大企業・財界の横暴な支配」という二つの異常を抜け出すために全力をあげたいと思います。

私たちが住む上越市は14市町村が合併して6年目に入りました。10年間に及ぶ新市建設計画も折り返し点を過ぎました。合併でめざしたものがどんなことになっているかを確認し、伸ばすべきは伸ばす、直すべきは直す、その作業に着手すべき時が来たと思います。

合併後5年を経過する中で、最大の問題は地域経済の衰退です。農業が依然として衰退を続けています。公共事業も少なくなる、総合事務所の職員数も年々減る、こうして商工業も深刻な事態となっています。このままいったら暮らしていけないという声がいっぱい聞かれます。私はこうした声をしっかりと受け止めて、少しでもお役に立ちたいと思います。

今年には参院選挙の年でもあります。国政も市政もこれまでの流れを変える過渡期に入っています。私は上越市の議員として、国政問題でも市政問題でもみなさんの声を第一にして努力しますので、どうぞよろしくお願ひします。

上越市議会議員 橋爪法一



NO 1430
2010.1.3

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪法一
Tel 548-3628 (有線) 4867
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>

春よ来い 第一一回 弁当

今回は弁当の話。先日、朝から夕方までかかる会議がありました。その日の朝早く、締め切りがせまっていた原稿書きをしていて、不意に、会議の案内文に「昼食は持参のこと」とあったことを思い出しました。

妻に「おにぎり握ってくれないか」と頼んだところ、「私は起きて握る力がない。ばあちゃんに頼んでちょうだい。そうでなければ、ご飯、何か入れ物に入れたらどう」と言います。この時、お米に、あわ、黒ごま、ひえなど十六種の穀類を三〇グラムほど入れたものがすでに炊き上がっていました。お米は私がといたものですよ。

「それなら、これにでも入れるか」と私が市販のおこわが入っていた使用済みの透明パックを持ち出したら、「そんなの、適当に洗ってあるからダメよ。ちゃんとしたものに入れなさい」などと言いながら妻は起きてきて、最後には「わかった、わかった。弁当作ってあげるわよ」。その後、たいした時間もかけずに、弁当を用意してくれました。

会議室に着いてから、私は弁当をカバンから取り出し、ハンカチに包んだまま机の上に置いておきました。どうしようという目的があったわけではありません。ただ、「おれもちゃんと作ってやらせてきたんだ。ほら、見てごらん」そんな気持ちで、心のどこかにあつたのかも知れません。

会議は順調に進み、正午になるちょっと前からお昼休みとなりました。いよいよ、待ちに待った昼食の時間です。まず、カバンからデジカメを取り出し、それから、二段重ねの弁当を広げました。上段にはおかず、下段には十六穀入りのご飯が入っています。おかずはミニトマト、キウイフルーツ、カブの漬物、ばあちゃんが作ってくれた筋子の粕和えなど五品。カラフルでとてもきれいでした。

上段の箱、下段の箱を平らに並べてから、どういふふう撮影しようかとデジカメを動かしていると、最初は私の行動を不思議そうに見ていた隣席のTさんがミカンを一個、弁当の脇に並べてくれました。色の組み合わせを考えたら、ミカンも写った方が美味しそうだと判断されたのでしょう。撮った写真は三枚。雑穀入りのご飯、おかず、みかんという組み合わせで、誰が見ても食べたくなるような写真となりました。じつは、この弁当、私にとっては、妻から三十数年ぶりに作ってもらったものだったのです。

私が弁当を持参して勤務していたのは二十代の時のほんの一、二年です。直江津のある設計事務所に勤務していた時でした。その事務所では弁当を食べていたある日のこと、弁当にちよっぴりしかおかずが入っていなかったのを見て、私は職場の仲間に「さあさ、おかず入れを忘れてきてしまった」と言いました。その時の様子を黙っていけばよいものを家に帰ってからどうも妻に話したらしい。妻の機嫌をすっかり損ねてしまいました。

以来、弁当をどうしたか、私には記憶がありません。母に頼んだ記憶もないのです。おそらく、事務所の近くの食堂のお世話になったのでしょう。もともと、その事務所はじきに退職して酪農の仕事に就いたので、弁当は必要でなくなりましたが。三十数年ぶりに妻が作ってくれた弁当は、冷蔵庫に入っているものなから、すぐにおかずにできるものだけを入れた単純なものでした。でも、とても美味かった。ご飯は一粒残さず食べ、おかずもきれいに食べました。かあさん、ありがとう。

新年度予算編成で76項目の要望 日本共産党上越地区委員会と議員団



日本共産党上越地区委員会と党市議団は12月28日、村山秀幸上越市長に対して新年度予算要望書を提出しました。

この日は阿部正義地区委員長が都合で参加できず、伊藤誠副委員長が代理出席しました。市議団は4人そろって参加しました。

今回の予算要望書には、①金融危機などの景気悪化から雇用と中小業者を守る緊急対策、②地域事業費、並行在来線などについて、③市民が安全、安心に暮らせる医療・福祉の充実、④すべての子どもたちへのゆきとどいた教育の実現、⑤食の安全を確保し、意欲ある農家・生産組織が安心して励める農業生産、⑥市民の安全を守る各種対策や市民負担の軽減、⑦各地域固有の問題、の7つの分野、76項目が盛り込まれています。

提出にあたっては、私が代表して要望書の概要について説明しました。懇談の方は、仕事納めの日ということもあって10分ほどという短い時間となりました。

私は、「新年度予算の編成にあたっては、たいへんきびしい経済状態が続いているので、市民の暮らしの状況をしっかりみつめ、どこに重点を置くか、どこを優先すべきかを（この要望書を参考に）考えてほしい」と訴えました。

市長からは、「新年度は重点のひとつとして子ども医療費の無料化、通学バスの無料化を考えている」

「合併後5年経ったこともあるので、新市建設計画や第5次総合計画の進み具合を検証していきたい」「地域事業については合併前上越市の区域の市民のみなさんにもよく知ってもらい、対応していきたい」などという発言がありました。

注目されている子ども医療費無料化について市長は、3年かけて中学校卒業までを実現していく考えであることを明らかにしました。

提出した要望書の全文は近く、私のホームページで公表します。



雪だるま。頭には「女の子の髪」という杉の枯葉がつけてありました。代石Sさん宅にて撮影。